

お米を原料にした商品開発の魅力 藤島農産物元気食楽部が研修会と総会

設立3年目を迎えた藤島農産物元気食楽部（太田三千夫会長・会員81人）が23日、研修会と総会を開きます。

コープ藤島店で昨年12月から販売された藤島元気米は、前年度比120%を超える売れ行きです。

行動力と情報量の多さに優れ、バイタリティーある話が聞けます。研修会はどこまでも参加出来ます。

研修会は山形県6次産業化プロジェクト

★期日…4月23日（金）午後3時～4時



ランナーの玉谷貴子さんが「米の可貴性」と題し講演

★場所…藤島庁舎3階大会議室
★申し込み…事務局・（藤島庁舎産業建設課）
☎64・5803

温泉の食堂スタート スタッフ頑張りに応援を

長沼温泉ぼっぼの湯と、くしびき温泉ゆるTownが、4月1日から新体制でスタートになりました。

一方、ぼっぼの湯では、お母さん食堂で頑張っている。地元民が立ち上がりました。

人的体制を最小に抑えながら、最大の効果をあげようとスタッフは奮闘しています。

しかし、ぼっぼの湯の困難は、アイスストッカーや炊飯器、電子レンジなどが故障して利用できない状態からのスタートです。

5月から、地域庁舎の市民福祉課で、フレイル予防体操教室や講演会が企画されています。

一方、食堂の運営は、行財政改革でテナントの導入に変わりました。

行革の考え方は「温泉の食堂は別会社」との位置づけで、運営組織からの出費や人的支援はしないとのこと。

ゆるTownでは、（株）庄交コーポレーションから出店申請があることが12日分かりました。

長沼地区では「食堂継続を支援する会」を立ち上げました。温泉と直売所、食堂は三位一体であり、行



ぼっぼの湯お母さん食堂のスタッフ

革の考え方から脱して、全体を活性化するため支援見直しが必要。ゆるTownでは、食堂の食器洗浄機の故障は庁舎で修理します。両施設ともスタッフが頑張り、応援してくれることを願っています。

月山とわたし 1

加藤貞雄（山王町）

（1）白く輝くまどかな山

亡き大先輩の滝巖さん（羽黒町桜ヶ丘）は、桜ヶ丘から眺める月山が最高だとよく言っていた。

桜ヶ丘の開拓にかけた長く厳しい労働に、きつと月山を見つめながら耐え、励んできたであろうその深い思いが重なっていたに違いない。

そこから眺める月山はいつ見ても素晴らしいが、中でも早春の残雪に輝く月山の姿には息をのむ。

佐藤玄祐さん（櫛引の黒川）は、自分の村はずれから見る景色は紅葉の彼方に横たわる秋の夕日に映える月山を賛美して止まない。

私もその辺りを写生することもあるが、棚田がのびてその向こうに広葉樹林が広がり、はるか彼方に紺青の月山が座している。

それは私の風景観の原型とも言えるよつた。昨年の夏に大綱の注連寺を訪れ、本堂の開放された大きな窓から飛び込んできた光景ー真っ青な大空に入道雲が湧き立つ月山を見たときは、胸のさわぎがしばらく収まらなかった。

かつて、森敦の『月山』を読んだとき、その冒頭に、森が豪雪の肘折（大蔵村）の渓谷をさまよひ、行き倒れになるところを村人に

助けられる場面が出ていて印象に残った。

そのとき森は、彼方に「白く輝くまどかな山」を目にして、「この世ならぬ月の出を目のあたりにしたようで」忽然とする。

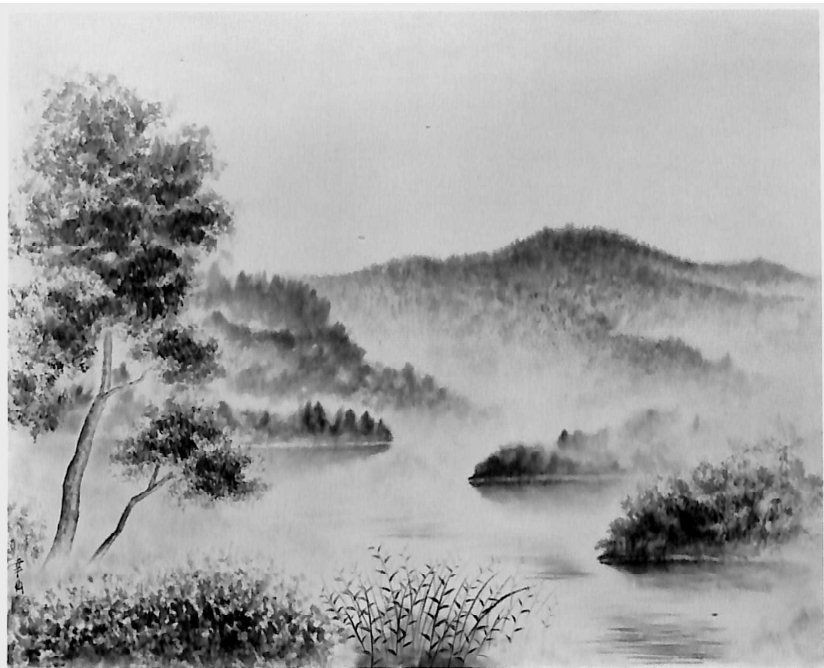
この箇所によく惹かれた。「白く輝くまどかな山」を自分の目で確かめてみたいという思いが何年もくすぶっていた。

ある年の正月、急に思い立って朝早く肘折めがけて車を走らせた。最上川の本台海近くで右に折れると雪は恐ろしく深くなった。除雪された雪道の両側は高い雪壁となつて延々と続いていて、辺りの風景は望むべきもなかった。

引き返そうと思いがらざるると走っていて、下りの急な坂にさしかかったとき、ぱつと眼下が開けて散在する集落が眺望された。その遠方の山並みの重なるはるか彼方に、白く輝く山が忽然と現れた。おわんを伏せたような半円形で朝日を浴びていた。

庄内から見る複雑な山巒も、光と影のコントラストもなく、紫がかつた朝空の中にただ白く輝いてたらずんでいた。（つづく）





右の絵は、水墨画・梅本幸巳さんの作品です。

早朝庄内海岸アルプスに向かう途中、大山公園に立つと、下池に霧が立ち込め奥に高館山が見えた、その風景画です。

やわらかい日差しが野山に注ぐ春、月山に連なる山々にはまだ冬が色濃く残っている頃、庄内海岸アルプスにはいち早く春がやっけてきます。

健脚の方は湯の浜から歩いてよいが、私は大山下池から城山コースをへ経て八森山に登り(ここはかなり苦しい登り)、旧加茂坂峠に向かつて歩いて行きます(登山道は由良まで続く)。

下池から登っていくと、春の野山を代表するカタクリ・タチツボ・スマレ・キクザキイチゲ等の花々を見ること

グイスの声などを耳にする事もでき、心を癒やす里山風景だとも思えます。

今回の水墨画、梅本さんは大山に住んで居るので、幻想的な下池風景を水墨画に託して提供してくれました。

私と同じ労山ツルオカに所属していますが、以前日本水墨画展で東京都知事賞を頂いた方で、美しい下池の風景を連想させてくれます。

(続く)



清楚に咲くカタクリの花



原発は停止しろ

やはり強行突破だぜ。反対の声に耳を貸す。政府にはそんな気は元々無いんだヨ。何の事かってカ。原発に溜まった水処理の事サ。

▲ここ1年位で満杯になるって言いながら、責任ある政府も東電も対策を考えた影も無ければ、あまりにも静かだったではないですか。そして「風評被害」だけは口にしてきたんだ。つまりは、初めから海へ捨てるつもりだったという事でしょう。

▲大変なのは日本という国の信用度だ。アベ首相が、安全だからと言って勝ち取ってきた五輪。そして、ここまですべて復興したとして開催することにした五輪。現実には、原発は爆発した当時のままなんだぜ。▲世界が注目していた汚染水を、海にバラまいてオモテナシをしよ

じられている。敬虔な仏教徒が80%と多く、毎朝各寺院の鐘の音とともに始まる托鉢は、ラオス各地で行われている。



托鉢に向かう僧侶

世界の国々 ラオス人民共和国 世界最貧国の一つと核禁条 約批准 青山崇

インドシナ半島に位置し首都はビエンチャン。

面積は日本の6割ほど、人口は690万人で、60ほどの多民族国家である。

中国チベットを水源とするメコン川が国内を縦断し、最大輸送路となつている。周辺の国々を流れ、ベトナムで南シナ海に出る。4000kmで最上川の20倍弱である。

1953年フランス

から独立したが、2大勢力の対立が激化。フランスの介入、ベトナム戦争の影響などを受け、国内を2分する内戦が続いた。

1973年和平協定成立し、1975年ラオス人民民主共和国として誕生した。

「社会主義」を名乗るラオス人民革命党を主導とする政治制度で、憲法に明記される1党制度である。

▲トリチューム以外の毒は、週刊誌などが詳しく教えてくれるだろうが、半減期何十年もというものがあるんだ。事故以来十年間、ようやくと市場に出せるまでに頑張ってきた漁業関係の方々苦労が、本当のミズのアワになつてしまつて。▲水でさえ手に負えない現実。デブリは行き先が無いんだ。電力は足りている。原発は直ちに停止だ。(石川)